



東京府外
淀橋町前
七三八
福田英子様



久しく、清無沙汰した。しよした
一月以来、縣下を旅行して廿二日
目下昨夜漸く歸省いたし、留守
中の郵便物を調査して敬啓を
したのみ

母老母の永眠、紀居等てありしを
思ひ、昨年の秋、清尾、月、はなりし
折、貴婦の、おたゑの母、は百まで
も生き、まじやうと、その平生もの、壯健
を、原こゝれし、もいふ、は、おたゑ、
おたゑ、うりも、おたゑ、
死、い、ら、人、事、の、常、り、れ、は、以、力、を、
し、た、この、お、い、へ、を、以、て、は、な、き、と、い、

貴婦、手、は、の、修、善、を、よ、て、恩、蔭、に、候、

お、の、清、無、御、上、敬、身、を、お、な、れ、
柿、が、片、の、御、を、お、い、こ、う、

さ、が、か、し、と、僕、に、批、評、眼、を、以、て、
眺、め、居、り、候、

さぞかしと僕に批評眼を以て
眺め居り申す仰

藝視聽も之より一層の注目せられたる
ことなるにせむ

二仰

昨たより貴新聞の裁判一件も序
者たるにして二つをとりりとの
とつれ現狀維持を金種を條々
守株の元し居る当局は若等が
する迫虐はまごゆる方あり
物への道具を以て責めたつるを
りしも時子は何人も抗する
出来ざるをん此の寒烈とさへ極と
いふ可執擧るが皆陽春の来りつ、
を暗示し居り候若等革命の
先鋒たるもの此大潮の流るる
を望し居る心と云ふは、
と云ふべきと、
先鋒たるもの此大潮の流るるを
を望し居る心と云ふは、

石川見よも久しく無沙汰いたし

あしたか月下の健康は如何と

一月十三日一寸姑の定へ行き神田から

一書あり貴社を初回ソレす續り

のが若子歸りたなとめ

一層車一晝夜を初回したす續りたる
のが若子歸とあるなるとぬのぐ
未礼したしよしたか

僕は傳道方法のき居川兄と相談
したたごともあるのぐ(中)
上京したつと思おつあるが

火しく寺をありて片權徳の家
も叱と木て片らや片 彼岸をきよ
もなるは上京は出あるいと思は
どいぞ生しく

あふりう人しく無けはしたや
老母の永眠と誓つては禱のあは
縁ををかゝる

二月廿一日 月山愚意

新田師上様

三ノ

二月廿二日

相州足柄下郡

温泉村



内山晃亮

71
6204
11

32